

# 令和2年 第10回 根室市教育委員会 会議録

## 1. 行政報告（各課の報告については会議録省略）

### 【 委員 】

11月にバドミントン等の各種スポーツ大会が予定されているが、何か制限等を設ける予定はあるか。

### 【 教育部長 】

コロナ対応の関係になるが、肺炎症状を訴える人が増加しており、PCR検査の件数も週ごとで5件から8件となっている。札幌市の感染者数が先日最多を記録したところではあるが、北海道はステージ1と一番低い段階となっている。しかし、ステージ2になる寸前のところまで来ており、「GoTo キャンペーン」が全面的に開始となった現在は、感染が地方にどれほど拡大するかが今後の懸念材料となっている。根室市に訪れる観光ツアーが今月だけで12本あり、名古屋方面の観光客が多数を占めており、状況を見ながら感染症対策に取り組んでいる。もし感染者が確認された場合には、感染者が学校関係者かどうかで今後開催する大会等への影響が想定されるので、感染症対策本部と情報共有を密にしながらその都度対応を図っていきたいと考えている。現段階では指導者の方々に出来る限りの感染症対策を講じていただくよう協力を仰ぐのが感染症拡大を防ぐ有効な手段であると考えている。

### 【 委員 】

成人学校について、昨年よりも9月の参加者が約1.5倍増で周りからも内容が面白いと伺っているが、どのような集客方法を用いたのか。

### 【 教育部長 】

例年は根室市内の方で講師を依頼していたが、内容のマンネリ化等により応募者が集まらない状況にあったため、担当者の方で市外にも目を向け市民の皆様が興味を持っていただけるような講座を行っている講師の方を探し、様々な工夫を凝らしながら実施している。また、在宅期間明けで密を避けるため、どうしても定員を減らさなければならない状況の中、広い会場での実施や講師を数人招き分散させての実施等工夫を凝らしながら実施をしてきたのが、参加者の増加につながったと考えている。

### 【 委員 】

社会教育、社会体育等の取組みについては、慣例にとらわれず新しい取組みを積極的に実施してもらいたい。

## 2. 非公開案件の審議（会議録省略）

- (1) 議案第48号 教育上特別な支援を必要とする児童の教育措置に係る諮問について  
結 論 原案どおり決定
- (2) 議案第49号 令和2年度根室市文化賞（奨励賞）の決定について  
結 論 原案どおり決定

## 3. 意見交換

○目的

教育行政の課題についての情報共有、さらには頂いた意見を今後の事務を進める上での参考とするために行うもの

## 【 教育部長 】

市立根室病院における検体検査の実施状況については、令和2年10月4日現在で累計110件となっており、先週は6件の検査があった。結果については、2件が陽性、108件が陰性となっている。

次に根室市文化・スポーツ団体等新型コロナウイルス感染症対策助成金交付実績について、この助成金については「新しい生活様式」を踏まえて行う文化、スポーツ、ボランティア団体等の活動に際し、感染症対策用品の購入やその製作に必要な費用として、1団体一律3万円を助成するものである。7月末から8月末まで募集を行い、文化団体101団体、スポーツ団体72団体、ボランティア団体10団体の合計183団体に対して合計549万円の助成金交付を行ったところである。これまで新型コロナウイルスの関係で活動再開の判断が難しい部分があったが、これを期に合唱団体等で活動を再開する団体が見受けられ、多少なりとも活動再開の手助けが出来たと捉えている。

次に「根室市新しい生活様式」を踏まえた事業等開催への活動補助金について、市内4団体に対して令和2年9月17日に交付決定を行ったところである。初めに根室商工会議所青年部創陽クラブ「おうちで花火わくわくプロジェクト」である。これについては、8月28日・29日に市内3カ所から花火を打ち上げている。2つ目にねむろ夏まつり実行委員会「ねむろ夏まつりプロジェクト」である。これについては、本来は野外でのイベントを予定していたが、2件目の新型コロナウイルス感染者が確認されたことを受けてWEB等でグループ発表や小学生Tシャツデザインコンテストの開催等を企画し、9月13日から順次WEB等へアップしております。続きまして、ねむろドライブインシアター実行委員会「ねむろドライブインシアター」である。総合運動公園の駐車場に大型スクリーンを設置し、100組限定で10月24日に大人向け、25日に子ども向け映画の上映を行う。各日で50組の受付を行い、駐車した車内で映画鑑賞を行う。25日はドライブスルー形式で飲食物の購入ができ、メニューの内容も充実したものとなっている。最後に根室アスリートクラブ「近代五種競技体験教室 in 根室」である。10月31日と11月1日で1回のみ体験とし、射撃・乗馬・フェンシング体験教室を開催する。

次に市内小中学校へのiPadの配備について、昨年度の3月補正分で児童生徒3人に1台分を措置し、児童用340台、小学校教員用114台を9月8日から同月17日で各校に納入が完了したところである。今後は中学校の230台、中学校教員用86台を10月中旬に納入予定である。北斗小学校では5・6年生に優先配備を行い、iPadを用いた授業展開をしている。10月12日の週にはiPadを用いて「修学旅行の報告会」を実施する予定である。今後については、令和2年度6月補正分で児童生徒3人に2台分が配備される予定であり、児童用681台、生徒用408台の合計1089台が12月中に納入となり、これにより市内全小中学生、全教員分のiPadの配備が完了する。

続いて、根室市総合教育会議における意見交換テーマについて、意見のあった「根室市には水産についての高等教育機関が必要」という意見について、北海道の現状については、漁業後継者や漁業を志す者は鹿部町にある道立漁業研修所において「総合研修」や「漁業就業促進

研修」を受講後に帰郷し家業を継ぐというケースが多数を占めている。大学で水産をも学べるところとしては、北海道大学水産学部があり、4つの学科を設けている。道立高校についてであるが、厚岸翔洋高等学校について、海洋資源科生産コースでは小型船舶や漁業、加工などに関する基礎的な知識・技術の習得、調理コースでは食品衛生や栄養学、調理等に関する基礎的な知識・技術の習得が出来る。しかし、入学者の定員に達していないようで、生徒確保に苦慮しているようである。次に小樽水産高等学校について、この高校は海洋漁業科、水産食品科、栽培漁業科、情報通信科の4つの学科があり、この中の海洋漁業科には専攻漁業科がある。高校3年間で修了後さらに2年間本格的に漁業を学びたい生徒に対して設けているもので、同じく情報通信科にも専攻科が設けられている。最後に函館水産高等学校について、海洋技術科、水産食品科、品質管理流通科、機関工学科の4つの学科があり、この中で機関工学科にのみ専攻科機関科が設けられている。

厚床翔洋高等学校においては生徒確保に苦慮している現状を鑑みると、根室に学校を設立することが有効な手段なのか判断が難しく、また、私自身の経験から日本の漁業の仕組み自体を変えていかなければならない時期に来ているのではと考えている。北欧ノルウェーがよく引き合いに出されるが、人口5000人ほどの町の学校で支援管理型漁業を徹底的に学ばせたり、例えば学校自体が獲った魚の漁獲高がそのまま学校の運営資金となる仕組みを取り入れ、水産業で特に漁業従事者が憧れの職業となっている。

根室から何かを始めるといふ場合には、根室の漁業者に対して相応の生活保障をする持続可能な施策が必要になると考え、また、漁業者が自身の子どもに家業を継がせたくないと考えている問題もあるので、市自体が覚悟を持って学校の誘致につなげていかなければならないと考えている。

根室市自体が国内屈指の水産都市であり、水揚げ高になると全国上位となり、その魚種の質の高さ等が水産庁からも注目されている。なので、その部分をどのように活かして持続可能な水産都市にしていくのが課題であると考えている。

#### 【 教育長 】

総合教育会議当日はあまり気負わずにご自身の意見を仰っていただければ有意義な会議が行えると考えている。

#### 【 教育部長 】

続いてコミュニティスクール関係である。現在社会教育委員の会議において山谷学校教育指導主幹が講師を務め、コミュニティスクールの設置に向けての準備を進めているところである。これについては、山谷学校教育指導主幹から説明を行う。

#### 【 学校教育指導主幹 】

ねむろ型コミュニティスクールの設置に向けてであるが、コミュニティスクールについては平成25年頃から国の教育総合政策の中で打ち出された制度であり、学校と地域がパートナーとして連携・協働するため学校が「地域に開かれた学校」から一歩踏み出して学校と地域住民・保護者が連携して学校運営を行い「地域とともにある学校」へ転換するための仕組みである。各学校長が考える学校運営の方針に対して、地域住民・保護者がどのような形で協力していくのかを検討する組織を立ち上げていくべきという考えから、コミュニティスクールの設置が全国各地で始まっている。根室管内では根室が一番遅れをとっているのが現状であり、理由としては他の町では地域の特性とコミュニティスクールの取組みがかみ合いやすく、設

置までの過程が円滑に進んだことにあると考えている。根室市においては、まず根室市街地以外に焦点を当て厚床・落石・歯舞地区のコミュニティスクール設置の準備を進めているところである。

コミュニティスクールの仕組みについてであるが、コミュニティスクールのコーディネーターを市教委、学校運営協議会を各小中学校校区で設置することとしており、コーディネーターを行う人材については市教委で任命することとなる。そして、コーディネーターを中心として学校長の考える学校運営方針を協議し、承認を受けた上で学校運営を進めていくこととなる。また、学校運営について協議するメンバーについては保護者や地域住民、学校医等が含まれる。

コミュニティスクールの取組みとしては、学力向上、地域課題解決学習、地域学校協働活動、いじめ・不登校問題等多様な取組みが上げられる。また、根室市は災害の多い地域なので防災の取組みもコミュニティスクールの一つの取組みとして考えられる。協議会で協議された内容を実行に移すための協議を「熟議」といい、「熟議」した結果に基づいて学校長が学校での教育計画を立てて運営していくこととなる。

根室市のコミュニティスクールのタイプはいくつかの型に分けられるが、その地域の特性に適した特色ある運営協議会を設置していければと考えている。パターンとしては次の5つのパターンが考えられる。「PTA活動等重視の活動を行う学校評価タイプ」「特色ある学校活動を行うタイプ」「教育支援活動重視のタイプ」「安全安心タイプ」「その他学校の抱える課題の解決を検討するタイプ」の学校運営協議会がある。

根室市のコミュニティスクールをイメージした場合、各小中学校校区で運営協議会の設置を行い、その各協議会の代表者が根室市全体の運営協議会を組織運営するのが最も効果的な方法であると考えている。

#### 【 委 員 】

コミュニティスクールはあらゆる権限を持っており、権限を持ちすぎるのも考え物であると感じている。具体名は控えるが、ある団体が学校の体験学習等にいろいろと口出しをしていて学校も対応に苦慮していると聞いている。体験学習というものはコミュニティスクールに通ずるものがあると考えている。コミュニティスクールについても教育の素人が間違っただけの方向に偏ってしまうのは危険かと考えている。私のイメージでは地域に根差した学校関連のコミュニティスクールを設置するというイメージであった。根室高校の今年の卒業生160人の内100人進学、30人が市外に就職という状況で根室に残るのが30人しかおらず、いずれ根室が無くなってしまわないかという危機感を抱いている。現在教育委員を任せていただいている中で、子どもを進学させるだけが教育なのかと疑問を抱えているところである。現在の高校の教育というのは進学させるためだけの教育という印象が否めない。そうではなく、ある程度の海洋学校のような根室に根付いてくれる人材を育成できるような教育機関が必要であると考えている。しかし、学校の誘致は困難であるとも理解している。なので、中学校から高校に押し上げていくような地場に根付いたコミュニティスクールを設置することが重要であると考えている。

#### 【 教育長 】

コミュニティスクールの実施については、市町村においては市町村立学校というよりはコミュニティ立学校を目指している。ただ、小中高含めそこにコミュニティスクール制度を当

てはめどのように機能させていくかについては、どこまでを限度するか判断が非常に難しいところである。例えば北海道教育委員会が行う教職員の任用で学校運営協議会側が意見をしたところで決してそのとおりの結果とはならず、市町村立学校の教職員の人事権が市町村教育委員会にあっても最終的な任用は北海道教育委員会が行うため、根室管内の人事について根室市が意見したところでその意見が通るかは難しいところである。まして、市町村立学校の学校運営協議会の意見が通るかは怪しいところがある。

#### 【 委 員 】

私は一事業主として、今も分からないことだらけであるが、時代が常に動いている中で自分だけが停滞していたら時代遅れになると考えている。出来ることがあるならとりあえずやってみることが重要であり、前進あるのみだと考えている。

形から作るのも一つの手段ではないか。

#### 【 委 員 】

今いる子どもを根室に根付かせるというのも重要だと思われるが、加えて移住・外国人等の外の人材を根室に招致して町を育てていく仕組みづくりを行っていくのも重要ではないか。

#### 【 委 員 】

コミュニティスクールについて、市街地校については一本化して集約していくのが理想というような話であったが、例えば市街地の中学校校長同士のすり合わせはどのように行っていくのか。

#### 【 学校教育指導主幹 】

基本的には中学校校区ごとでコミュニティスクールを設置することが基本となる。根室市に当てはめたときに、例えば歯舞地区は学校が1校なので歯舞地区で一つのコミュニティスクールとなり、他の郡部地区も同様となる。ただ、市街地地区となると柏陵・光洋校区となるので、市の社会教育課、学校との打ち合わせの際校長をサポートする機関が必要との意見があり、根室市全体を考えたとき各協議会の代表者を集め一つの運営組織を設置すれば校長のサポートになると考え、今回案として説明を行った。

#### 【 委 員 】

水産関係の学校招致・設立については、以前から水産関係に限らずそのような話を多方面から伺っていた。しかし、現実はその家庭も普通科思考だと聞いている。根室高校に進学するにしても商業科、事務情報科に最初から進学を希望している家庭は少ないと聞いている。親の立場から考えると普通科に進学させた方が職業選択の幅が広がると感じている方が多く、難しいと感じている。また、学力の高い子、スポーツの得意な子は市外の進学校やスポーツの強豪校に進学し、親も子どもの希望を叶えるために多少無理をしてでも進学させられるので、その部分を考慮しても難しいと考えている。

#### 【 教育部長 】

今の教育を取り巻く環境全体が学校だけで収束ではなく、それこそ部活動も地域の人に指導を依頼できないかと国の方で考えているようであるが、はたして地方でそれが当てはまるのかが疑問を抱えるところである。部活動の時間帯こそ忙しい人が多いと思われ、地方の状況というのは汲んでもらっていないと感じている。ただ、地域で子どもを支えていくのはコミュニティスクールの根底にあると考えるので、そこを根室市としてどのような形を選択するのがふさわしいのか、コミュニティスクールの導入を進めていく中で皆様の意見を参考に

しながら考えていく。歯舞学園については来年度からとしており、歯舞地区については歯舞学という地域学習と漁協が実施する「マリンビジョン」という元気な漁村づくりの一環としての教育への貢献活動がうまく絡んで、学校との連携が進んでいるので、まずは歯舞地区でのコミュニティスクールの導入を校長会とも連携しながら進めてまいりたいと考えている。

**【 委 員 】**

根室市の今を作っているのは総合政策室や水産経済部だと思われるが、根室市の未来を作るのは教育委員会だと考えている。教育委員会があきらめるということは未来をあきらめるということであると考え。教育委員会にはやれることを積極的に実施していただきたい。

**【 教育長 】**

本日頂いた意見を参考とさせていただく。

午後4時20分 閉会